



有害獣防止柵（寄地区）

鳥獣被害と 空き家対策について



質問者
飯田 一 議員

今年の鳥獣による農作物の被害は、昨年までとは比べものにならない位に大きな被害を被り、農家の方は耕作意欲を失っているのが現状です。

① 農作物の被害は増え続け、農家の生産意欲は減退し、耕作放棄

地も増加しています。

被害額も数字に現れる以上に深刻な状況です。「有害獣防止柵設置材料費補助金」制度もありますが、とても追いつける状況ではありません。もう一段の鳥獣被害対策が必要と考えますが、町のお考えを伺います。

② 空き家になった住宅が放置され、雑木が生い茂り拳句の果てに、ハチやシカなど動物の住家と化しているところがあります。景観の悪化・防犯・防災の面からも問題があり、管理の不十分な空き家の所有者に対し適切な措置をとれませんか。

A 「有害獣防止柵設置材料費補助」制度の緩和を検討回答（町長）



① 町の被害状況は、シカ・イノシシ・ハクビシン・カラスによるものが多く、お茶やタケノコ・ミカン・柿などの被害が報告されている。町で支援している「有害獣防止柵設置材料費補助金」の対象

は、農家3戸以上・耕作面積0.2ha以上が条件であるが、その利用は難しいと聞く。被害が増加傾向にあり、町補助金が利用しにくいならば、現行の補助制度を2戸以上・0.1ha以上とする緩和策を検討する。

② 高齢化や少子化により、管理不十分な空き家が増えてくることが懸念される。防災や防犯上も問題となるので、場合によっては空き家の所有者を特定し、適正な管理をするよう促していく。

停滞している整備事業の今後について



質問者
石内 浩 議員

新松田駅南口駅前広場整備事業は、近隣市町の住民の皆さんを含め内外に完成後の安全と便利さ

をアピールしながら、当初の完成予定からすでに数年を経過している。しかし、事業の進捗率は60

%にも達していない。この現状について、どう対処されようとしているのか。

次の点につき明確なご返答を願いたい。

- ① 事業進捗の障害原因の分析と、対策の進展状況は。
- ② 庁内における対策のための特別体制はあるのか。
- ③ 地元への具体的対応は。

A 粘り強く交渉継続回答（町長）



① 用地取得の難航理由

は、公共事業用地の取得及び建物補償に伴う税控除の問題、家屋等の移転に伴う不安解消に時間を要している。事業へのご理解をいただけるよう誠心誠意交渉を続けていく。

② 特別な庁内体制は整えていないが、私や副町長を含め担当課と対応に当たっている。交渉相手との信頼関係が必要であり、今後この体制で継続する。

③ 松田署との協議で、暫定的に変電所側にも仮設の歩道設置の了承を頂けた。バリケードの撤去、歩行者の安全確保の工事に着手する。なお、地元への説明会は交渉相手もあることから、控えさせて頂きたい。



新松田駅南口